

序 言

北海道教育大学が全国の大学に先駆けて「新課程」を改組し、函館校に国際地域学科を設置したのは、2014年である。函館校の「新課程」改組は、国際社会と地域が分かちがたく結びついているグローバル化時代にあって、「大学が率先して、社会の変化に対応し得る地域人材の育成を担ってほしい」という地域社会の強いニーズに応えたものであった。

その設置目的は、教育面では「国際的な幅広い視野を持って、身近な地域の課題に挑みながら地域の活性化と再生に貢献できる人材の養成」であり、研究面では「『地域学』あるいは『地域研究』というものが内包するあらゆる研究分野における理論的研究と実践的研究を融合的に深め」ながら、「複雑化する現代の諸課題に対応し、先進的かつ学際的研究を推進」して「その成果を地域に還元する」ことにある。

こうした理念に立って最初の卒業生を送り出した2018年度に、函館校はその間の成果を世に問う『国際地域研究 I』（大学教育出版）を刊行した。これは「国際地域研究の地平線—函館からの出発—」をテーマに掲げて開催した国際地域研究第1回シンポジウムを踏まえ、新たな学問領域である国際地域研究について、学内外の研究者が最新の知見を紹介しながら今後の方向性を探ってみたものである。

今回刊行する『国際地域研究 II』は、さらに新領域へ踏み込んだ続編と言える。2019年6月に開いた、2回目となる国際地域研究シンポジウムは、「国際地域研究の現実的課題—国際化の中でさぐる地域活性化へのカギ—」と題し、現実の具体的課題を取り上げ、これからの時代をどのように描いていくかということに焦点を当てた。本書は、そのような問題意識に立っての研究成果を集大成したものである。

ここで現代社会の現実に目を向けると、真っ先に浮かび上がるのはグローバル化と切り離すことのできない問題である。そこでは、ヒトやモノ、資本、情

報・通信が地域や国家の垣根を越えてボーダーレスに移動するなか、激しい競争原理が働いている。それを背景として、先進国では景気が悪化し、それに輪をかけるように、米中貿易戦争が世界経済の先行きに影を落としている。さらには、世界の平準化、大衆化が進む一方で格差が拡大し、グローバリズムの恩恵に浴さなかった人々の不満が高まっているという側面もある。

もう一つ、高齢化と人口の減少という問題もある。日本は世界で一番早く超高齢化社会に突入し、人口の3分の1近くを65歳以上の高齢者が占めるという、かつてない事態を迎えている。日本の人口は2008年の1億2,800万人をピークに年々減少の一途をたどっている。少子化に伴う人口減少は、深刻な人手不足とマーケットの縮小をもたらしている。そればかりでなく、大都市への人口集中が進み、地方とのアンバランスが拡大しつつある。そうした社会構造の急変に対応するため、政府は人工知能（AI）開発などのイノベーションに活路を見いだそうとしているほか、不足する労働力を補うために外国人労働者の受け入れを拡大する方向へと舵を切った。今後5年間で最大34万人という外国人労働者を受け入れることは、私たちに新たな課題を突き付けることにもなる。つまり、日本語教育や医療などに対応するために財源と人材の確保を迫られるだけでなく、多様な文化的背景を持つ人々とどのように共存していくのかを、日本国内にあっても考えていかなければならない時代に入ったことを意味している。

北海道の人口は23年前の1997年をピークに、全国平均に先駆けるように減り続けてきた。その一方で、外国人の人口は増え続けている。こうして見ると、北海道は、社会構造の急変にさらされている現代日本の縮図とも言え、それだけに、北海道の地で国際地域学科という教育研究組織を持つ本学の役割は重要である。

年号は平成から令和へと変わった。この時代の転換期にあって、私たちは、特定の場所で生活する人々や、その場所特有の自然環境が長年にわたって築き上げたコミュニティを、これからどのようにして維持し、発展させていくのかを真剣に構想していかなければならない。

昨今、ますます複雑化する国際関係の行方とそのなかで日本がとるべき針

路について、私たちは敏感に情報をキャッチし、物事の本質を捉えるために考察して認識を深め、また他者との議論を通じて適切な判断を下して果敢に行動していく必要がある。国際地域学・地域研究は、そのために欠かせない学問として、今後、重要性を増すと確信する。幸い好評を博した『国際地域研究 I』に続き、ここに『国際地域研究 II』を刊行できることは、本学の喜びとするところである。読者の皆さまから、忌憚のないご意見、ご批判、ご感想を仰ぎたい。

2020年3月

北海道教育大学長 蛇穴 治夫

『国際地域研究 II』の刊行にあたって

北海道教育大学が函館校に国際地域学科を設置して6年目を終えようとしている。この学科は、本学の教員養成の実績を生かして、地域の再生や活性化、ならびに国際化に寄与できる人材の育成を目指している。そのため、地域の実践的課題解決能力を養う「地域プロジェクト」や海外体験型科目の「海外スタディツアー」、地域課題の診療所をイメージした「ソーシャルクリニック」などの授業がある。さらには、2018年より道南地域の観光や教育に関して深く学び、本校独自の認定資格「HAKODATE コンシェルジュ」を得るための養成プログラムの取り組みも始まっている。

こうしたなかで、2018年6月に「国際地域研究の地平線—函館からの出発—」をテーマに第1回シンポジウムを開催し、新しい学問領域である国際地域研究について最新の知見を紹介しながら、今後の方向性を探り、2019年3月には『国際地域研究 I』を刊行した。また、2019年6月には第2回シンポジウム「国際地域研究の現実的課題—国際化の中でさぐる地域活性化へのカギ—」を開催し、国際化の渦中であって、地域活性化に向けての現実的な課題とは何か、教員養成・多文化共生・国際教育協力の視点から今後の指針を示した。これらの取り組みにより国際地域研究の成果が地域に還元されるとともに、学科の授業内容に反映され、学生の研究活動にも取り入れられ、そのなかから新しい研究テーマが生まれ、国際地域研究をさらに発展させるというサイクルも見られるようになってきている。さらに『国際地域研究 II』を刊行できることとなり、国際地域研究をより推進できるものと考えている。

このようなことを教員養成系大学が行うことの意義は、地域の課題や現状を理解している学校教員がますます必要になっていくと考えるからである。今後は、国際地域研究の成果をどのように教員養成に生かすことができるかということを検討し、地域で生きていくことの意味や豊かさをしっかりと理解した教員の養成を支え、地域の学校への支援を行っていききたい。そしてさらに、社会

人の学びなおしや外国人児童生徒への対応など、地域のニーズに合った教育や学校へのサポートのあり方についても研究を続け、地域の学校教育や学校教員を支えていきたい。

本学の国際地域研究について、これまでの成果の一端をまとめたものが本書である。国際地域学や地域研究に関心を寄せる多くの方にご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いである。

2020年3月

北海道教育大学函館校キャンパス長 五十嵐 靖夫

國際地域研究 II

目 次

序 言..... 蛇穴 治夫... i

『国際地域研究 II』の刊行にあたって..... 五十嵐 靖夫... iv

第 1 部 国際社会における日本の役割

第 1 章 国際関係の行方 — 日本はどう取り組む？ — (シンポジウム基調講演)

..... 田中 均... 3

世界は 30 年間で変わった — 新興国の台頭 — / 民主主義国のポピュリズム /
アメリカの指導力低下 / 日本の外交課題は何か / 第 1 の危機：米中対立 — ア
メリカで強まる対中脅威認識 — / 中国の国家資本主義 / アメリカ大統領選挙
という国内政治 / 諸刃の剣、中国のナショナリズム / 経済の相互依存関係 /
日本はビジョンを持って / 第 2 の危機：朝鮮半島 — 火を噴きかねない核危
機 — / 「核」の切り売りで狙うもの / 大きな絵を描かねば拉致問題は解決し
ない / 核・ミサイル問題の解決は日本の重大事 / 第 3 の危機：イラン — 高ま
る戦争の蓋然性 — / アメリカの反イラン感情 / 日本は緊張緩和へ役割を果た
せ / 第 4 の危機：イギリスの EU 離脱 — 問われる合理性 — / 日本は相互依
存関係の拡充に努めよ / 【質疑応答】

第 2 章 エジプトでの国際教育協力プロジェクトの経験から

— 国際地域学科による国際協力の可能性と意義 —

..... 田中 邦明... 30

はじめに 30

1. ODA (政府開発援助) をめぐる途上国への基礎教育支援への着目 31

2. エジプトにおける初等理科教育支援プロジェクト 32

3. 発展途上国に固有の問題とその対策 39

4. 教育実践研究での国際協働とその成果 41

5. 国際教育協力の経験を大学教育に生かす取り組み 44

おわりに 50

コラム 1 音楽と国際交流 長尾 智絵...53
コラム 2 「ギョエテとは俺のことかとゲーテいい」 山岡 邦彦...55

第 2 部 国際地域研究 各論

【北海道の課題】

第 3 章 北海道における木質バイオマスの可能性と課題
..... 浅木 洋祐...59

はじめに 59

1. 木質バイオマス 60
2. 固定価格買い取り制度 64
3. 北海道における木質バイオマス 67

おわりに 71

第 4 章 国家と地方自治体の関係をめぐる政治思想的考察

— 北海道新幹線の新駅、新函館北斗駅の建設とその名称問題を媒介
にして — 田村 伊知朗...74

はじめに 74

1. 札幌新幹線としての北海道新幹線 74
2. 並行在来線の経営主体としての第三セクター 79
3. 新函館北斗駅という名称問題と地方公務員の無作為 81

おわりに 85

コラム 3 コンテンツツーリズムと地域創生 外崎 紅馬...88

【多文化共生への挑戦】

第5章 ブロニスワフ・ピウスツキのサハリン研究と民族自治

.....	宮崎 悠	90
はじめに		90
1. 20世紀初頭におけるサハリン島の状況		94
2. ブロニスワフ・ピウスツキの前半生 — 思想と行動の歴史的背景 —		97
3. 少数民族研究と自治の提言		99
おわりに		101

第6章 多文化共生社会の実現を目指した外国人政策

— 外国人を対象とする法教育の試み —

.....	金 鉉善・佐藤 香織	105
はじめに		105
1. 日本語教育や異文化間教育における「多文化共生」の取り組み		107
2. 外国人を対象とする法教育の提案		109
3. 外国人留学生を対象とする法教育の実践および課題		112
おわりに		114

コラム4 ポイットつながる世界と地域 林 美都子...120

【教育の実践例】

第7章 「やさしい日本語」の活用による「観光」と「学校」への貢献の可能性

.....	伊藤(横山) 美紀・高橋 圭介・伊藤 恵・相川 健太・奥野 拓	122
はじめに		122
1. 観光と「やさしい日本語」		123
2. 学校教育と「やさしい日本語」		126
3. 地域に貢献する「やさしい日本語」 — 人のつながりから —		131
おわりに		133

第8章 生物多様性資源を活用した長期農山村インターンシップの取り組み
..... 村上 健太郎・石橋 健一…136

はじめに 136

1. 若者と農山村の今日的状況 136

2. 名古屋産業大学の長期インターンシップと農山村 138

3. 農山村の生物多様性を活かした自主研修 143

おわりに 147

第9章 知的障害児を対象とした地域のニーズに基づいた長期休暇余暇支援
プログラムのあり方
..... 細谷 一博・廣畑 圭介・五十嵐 靖夫・北村 博幸…150

はじめに 150

1. 余暇を支えること 150

2. 余暇の現状を考える 152

3. 実践の紹介 154

おわりに 160

コラム5 多様性社会の教育に SOGI の視点を..... 木村 育恵…163

余 話 江差追分でたどる地域と人々の姿— 総合的な学習の時間「地域の伝
統や文化」のための教材開発に向けて— 羽根田 秀実…166

はじめに 166

1. 江差追分前史— 北国街道と北前船航路— 167

2. 江差追分の成立と展開— 鯨漁と出稼ぎ者たち— 170

3. 江差追分の伝播・流布— 北海道内各地への広がり— 174

おわりに 176

第3部 シンポジウム

1. 概要 181

2. パネルディスカッション「国際化の中でさぐる地域活性化へのカギ」

田中 均・孔 麗・森谷 康文・古地 順一郎・山岡 邦彦…185

あとがき…………… 205

執筆者紹介…………… 206